HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	月刊DRF 第10号
Author(s)	デジタルリポジトリ連合
Description	事務局: 北海道大学附属図書館 http://drf.lib.hokudai.ac.jp/ で公開したもの
Issue Date	2010-11-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/73495
Type	journal
File Information	DRFmonthly_10.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

月刊 DRF

Digital Repository Federation Monthly

第10号
No. 10 November, 2010

【特集1】SPARC Digital Repositories Meeting 2010
【特集2】WSの秋！　各地からのワークショップ報告

▲DRF7会場そば，横浜の夜景

第10号記念の月刊DRFは，11月に開かれた SPARC Digital Repositories Meeting 2010 の参加報告，そして，10月末から11月にかけて全国各地で開催されたワークショップの模様のレポートをお届けします。図書館総合展でのDRF7についても，どこよりも早くお伝えします！

【特集1】SPARC Digital Repositories Meeting 2010

2010年11月8-9日に，米国メリーランド州ボルチモアにてSPARC Digital Repositories Meeting 2010 が開催されました。4つのセッションと2つのKeynote Speech，Innovation Fairがあり，北米を中心に約230名が参加しました。日本からは”Global Repository Networks”のセッションに 安達淳先生（国立情報学研究所）のご発表があり，日本の状況としてJANUL+PULCの合同コンソーシアム結成の紹介や，ORCIDなどのプロジェクトを始め，「WWWから知識インフラ」への移行が始まっていることへの言及がありました。DRFからは国際連携ワーキンググループの土出郁子（大阪大学附属図書館）が一般参加しました。

プログラム等詳細については
http://www.arl.org/sparc/meetings/dr10/ をご参照下さい。

▲SPARCから開会あいさつ

▲月刊DRFをOA配布物コーナーに設置

▲会場エントランス前に設置された休憩用のスターバックスコーヒーのサーバー

▲Innovation Fairで設置されたポスター

4セッションのうち「リポジトリをベースにした出版サービス」は，前回2008年の会議ではひとつの事例報告にすぎなかったものが今回は大きなセッションになっており，日本で取り組んでいる紀要や学内刊行物のような学術成果物のリポジトリ発信が漸く米国でも注目され始めています。Innovation Fair (ポスター発表)ではいろんなお役立ちツールや取組が紹介されました。

ハーバード大でさえ先生は自主的には登録してくれない，など，私たちと同じ悩み・課題を米国の図書館員も抱えています。DRF技術サポートWGの開発ツールや各大学の研究室訪問などを考えると，日本での活動も負けていない，むしろ一枚上手かもしれません。

【特集2】WSの秋！　各地からのワークショップ報告

11月25日　DRF7　（第7回DRFワークショップ　パシフィコ横浜・第12回図書館総合展）

今年も図書館総合展でDRFワークショップが開催されました。いちはやくその内容をご報告します。

(1)DRFから皆さんへ

「我々が目指すものはただ一つ、
研究成果をリポジトリに遍く載せることだ。」
（逸見勝亮DRF運営委員長）

●平成22年度デジタルリポジトリ連合総会

平成22年度の活動報告及び今後の活動についての意見交換がなされた。DRF加盟館も現在121機関。発足当時から徐々に増え、各WGも活発に活動している。また協議事項では運営資金の件がとりあげられ、会費の徴収等、今後自立して運営していくための案について説明があった。

●DRF活動報告

DRF-Tech in Karuizawa 成果報告
野中　雄司（北海道大学附属図書館学術システム課）

困ったことがあればDRF技術サポートWGメンバーへ！
せっかくあるDRFコミュニティ。持ちつ持たれつでみなで助け合いましょう！

アメリカでも、個々の図書館員がリポジトリで悩んでいることは実は同じ。
世界中のみんなとコミュニケーションをとって、相談したりアドバイスしたり、きっとできる！仲間を世界に増やしましょう(^-^)

OAW国内活動およびSPARC DR Meeting 2010 出張報告
土出　郁子（大阪大学附属図書館学術情報整備室）

学術情報を必要としている誰もが、無料でそれを利用できる状況をうみだすべき。外国から「学術情報の更なるOA化を頑張ろう」というビデオメッセージも届いた。

Berlin8（北京）出張報告 ※ビデオによる報告
徳田　聖子（筑波大学附属図書館情報管理課）

★ショート発表

この形式の発表は参加者からもインパクトがあって良いと好評！

何でも教えて下さい！

H22.10.1に学術機関リポジトリ「USAGI」を公開。まだまだ第一歩。これから学術流通に貢献するべく進んでいきたい。

上野　友稔
（島根県立大学図書情報課）

農学分野のご相談は細羽見まで！

メタデータを使う側として主題（分類）の活用は今後大いに期待できます。世界的な農学DB AGRISから日本のIRへアクセスを実現させたい！

細羽見　喬
（農林水産研究情報総合センター）

コツを共有しましょう

DSpaceの小技～コレクションの編集画面「あいさつ文」に紀要の目次をHTMLで書き込みしています。

西戸　雅博
（福島県立医科大学附属学術情報センター）

(2)講演「機関オープンアクセス方針とは何か―英国レディング大学の場合」

リポジトリに熱意のある人とともにOAの重要さを広めていく

リポジトリ登録の制度化を実現するためには、その意義を学内の教員、上層部など権力のある人に訴え、理解してもらうことが必要である。教員は往々にして忙しく、リポジトリに対しては強制力がない限り、登録を浸透させることは難しいとりあえず議論をするよりも、まず登録してみることが第一歩となる。

講師：アンドリュー・A・アダムス（元・レディング大学、現・明治大学）

参加者の声

◎研究者主導でIRが推進されているところが日本と異なるなと思った。

◎ IRの浸透には時間がかかりそう。

◎手間がかからないなら成果をIRに載せたいと思います。

◎兼任でIRを担当している人も多いので、他の図書館業務といろいろ連携できそう。

(3)「放っておけないIR：リポジトリ元担当者座談会」

座長：加藤　晃一（浜松医科大学学術情報課）
パネリスト：

高橋　菜奈子（国立情報学研究所学術コンテンツ課図書館連携チーム）「NACSIS-CATとIRのミッションは共通している」
斎藤　未夏（筑波大学附属図書館情報管理課）「電子ジャーナルでも登場人物＝教員、出版社、You＆Iは変わらない」
金藤　伴成（東京大学附属図書館情報管理課資料契約係）「業務のつながりは薄くても根っこではつながっているはず」
棚橋　是之（名古屋大学文系総務課図書グループ（文学部担当））「IRの活用事例を知り、更に展開する方策を探る」

(4)「教員との対話」

サイエンスショップとは市民が科学技術を含めた様々な問題を持ちかけるためのシステム。市民が積極的に研究・開発に参加。研究成果を論文にまとめ、公開する。（春日）

教員からIRの勉強会を提案。不安も減少。取り巻く環境を再考察し、OA化を推進させることで看護学の発展を目指したい。（諏訪）

大学の予算削減により、読めない論文が出てくることに危機感。自身の論文を広く公平に読んでもらうためにも、もっとIRの普及を。（田中）

パネリスト：
春日　匠（大阪大学コミュニケーションデザインセンター特任助教）
諏訪　さゆり（千葉大学大学院看護学研究科教授）
田中　啓文（大阪大学大学院理学研究科化学専攻助教）

座長：　岩井　雅史（信州大学附属図書館システム／コンテンツ形成担当）

◎IRの良さを分かってもらうには実際に登録してもらうことが一番だが、その第一歩を踏み出してもらうためには、どのようなアプローチをすればよいか。

◎学術情報流通をIRで活発化していっても、全ての論文がオープンアクセスにはならないのではないか。

◎先生方がこの場（DRF7）に来て、IRの良さをお話しいただけることがすごいことだと思います。

◎先生方から自発的にやってもらうと、IRはもっと認知されるのではないかと思う。

10月29日　DRFtech - Hamamatsu （浜松医科大学）

DRFtech-Hamamatsuは東海地区最初のワークショップとして開催されました。基調講演・事例報告、UsrComを使ったDSpaceの登録演習、意見交換会と密度の濃いワークショップの参加者は東海・近畿地区を中心に21機関26名。前夜に大雨をもたらした雨曇を吹き飛ばす、熱気あふれる1日でした。

全体プログラム
基調講演:「機関リポジトリと大学図書館の将来」(竹内比呂也氏)
事例報告:「機関リポジトリ構築に向けて」(河田貴司氏)
コンテンツ登録実習:「DSpace」(徳安由希氏)　協力:UsrCom
意見交換会(UsrCom&DRFtech)

DRFtech Hamamatsu
DRF Digital Repository Federation
DRF技術ワークショップ in 浜　松

開会挨拶
中原大一郎　浜松医科大学附属図書館長
機関リポジトリ構築に向けて協力関係の必要性を強調されました。

事例報告
「機関リポジトリ構築に向けて」
河田貴司静岡県立大学附属図書館主査
静岡県立大学附属図書館での構築計画、XooNIpsによる試行運用サーバの自力構築など、これから機関リポジトリの構築に取り組む参加者に多くの示唆を与えてくれた報告でした。

基調講演　機関リポジトリと大学図書館の将来」
竹内比呂也千葉大学文学部教授
「シリアルズ・クライシス」から発生したオープンアクセス運動の中での機関リポジトリの登場、大学図書館機能との関連、今後の展望について分かりやすく解説され、大学図書館の将来は学術機関リポジトリとともにある、と力説されました。参加者からは「機関リポジトリの断片的な知識・情報が一つにつながり、有益な講演」という声が多数寄せられました。

UsrComを使ったDSpaceによるコンテンツ登録演習

講師:徳安由希（九州工業大学附属図書館）

説明が分かりやすかった

登録の流れが理解できた

使ってみると簡単！

今後もUsrComを使ってみたい

またWSを開催してほしい

11月4日　DRFmed - Nara （奈良県立医科大学）

DRFmed-Naraは遷都1300年の奈良において開催された医学・看護学系主題ワークショップ。パネルディスカッションの座長や開催の裏方として尽力された、奈良県立医科大の鈴木さんにレポートしていただきました。

▲会場風景

今年、平城遷都1300年を迎えた奈良におきまして、主題別としても医学・看護学系としても昨年度に続いて2回目となるワークショップを11月4日に開催しました。新幹線や空港から遠く離れているため、2泊された方もおられて、奈良ってホンマに遠いんだなぁと実感した次第です。

今回のねらいは2つ、奈良医大内への機関リポジトリ事業の周知と地域に散在する病院から医学・医療情報を集約して発信するための共同リポジトリ構築の要否でした。

本学研究者の参加は少なかったのですが、学長と図書館長に基調講演を聴いていただけたこと、館長自身に機関リポジトリを語っていただけたことは大きな意味があったと思っています。また、パネルディスカッションでは、病院勤務の医療従事者にとっての情報発信の場として共同リポジトリはきっと役立つであろうという感触を得ることができました。

▲パネルディスカッションで意見を交わすパネラーの方々

アンケートでも好評でした病院医師の立場からの小坂氏のお話が特に印象的でしたのでザックリと紹介します。

医学文献の信頼度をエビデンス・レベルという指標で表すことがありますが、エビデンス・レベルが低くても稀少症例の報告など臨床に役立つ情報はたくさんあります。ところがマイナーな雑誌や紀要に載っているために入手しにくいのでリポジトリに載せてもらえると助かります。ただし、マイナーな雑誌ほど患者匿名性が不十分なケースが多い点が非常に心配です。忙しく検索リテラシーの低い医師でも必要な情報を短時間で得られるような効率の良い供給方法を考えてほしいと思います。

▲小坂淳医師（堺市こころの健康センター）

このワークショップで私のねらい通りの成果が得られたと喜んでおります。これもひとえにDRFのみなさま、参加者のみなさま、講師・パネラーのみなさまのおかげです。この場をお借りしてお礼申し上げます。

（鈴木　孝明／奈良県立医科大学附属図書館）

11月19日　DRF–CityofHiroshima （広島経済大学）

DRF-CityofHiroshimaは、「様々な視点から機関リポジトリを捉える」がテーマでした。機関リポジトリが様々な場面で登場するようになってきている昨今、改めて色々な視点で機関リポジトリを捉えなおしてみました。

○ 第1の視点　研究者から見た機関リポジトリ

コンテンツを生み出すお立場から、研究成果を公開したい理由、実際の反響、また紀要編集委員のご経験などをお話しいただきました。

(左)広島市立大学　目良和也先生
(右)尾道大学　藤川功和先生

地域密着が参考になりました。

○ 第2の視点　図書館担当者から見た機関リポジトリ

教員との関係、館内での取り組み、ILLやレファレンスと機関リポジトリとの関係をそれぞれの事例から語っていただきました。機関リポジトリ業務は単独の業務ではないということがよくわかりました。

○ 第3の視点　機関リポジトリ万華鏡

さまざまな立場の声が聞けてよかったです。

(左)鈴木雅子（北海道大学）、(左中央)【Skype出演】杉田茂樹、南絵里子、長谷川奈々（小樽商科大学）、(右中央)永井一樹（兵庫教育大学）、(右)大園岳雄（広島大学）

キーワードを、各自で説明中。

ビンゴゲームで機関リポジトリや各大学の関連キーワードを楽しく学び、雰囲気が打ちとけた中で、それぞれの機関リポジトリ事情や感想や疑問点を皆で語り合いました。

ビンゴの豪華賞品。なんと、Skypeで参加の小樽メンバーが1位で上がり！！

DRF史上初!のSkype中継の取り組み。反応は上々でした。改良を加えて今後も！

知らない用語も楽しく勉強できました。

全員発言！熱い会場でした！

離れていても、おもしろい話がナマで聞ける！

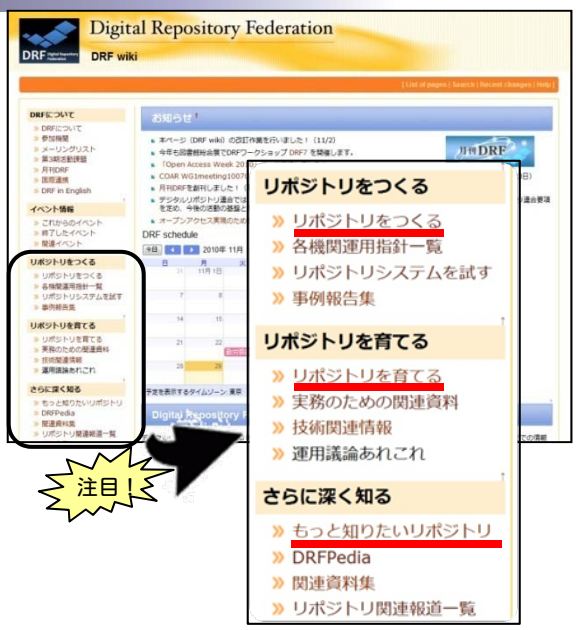
おすすめ　進化するDRFウェブサイト

http://drf.lib.hokudai.ac.jp/

DRFのウェブサイト「DRF Wiki」、使っていますか？DRFのこれからのイベント情報やこれまでのイベントの資料、メーリングリストのバックナンバー、リポジトリ業務の中で出てくる気になるコトバを集めた「DRFPedia」など、役に立つ情報が満載です。

さらに今月からは、リポジトリを立ち上げるときに必要なことがらをまとめた「**リポジトリをつくる**」、運用のなかで「あれってどうすれば？」と気になったときに参照できる「**リポジトリを育てる**」といったコンテンツも加わっています。ちょっと深いテーマについて、参考となるウェブサイトや過去のMLの投稿を参照できる「**もっと知りたいリポジトリ**」もオススメ！

左サイドメニューからぜひご参照ください。



次号予告

【特集1】2010年リポジトリ＆オープンアクセス10大ニュース＆流行語大賞
いよいよ年の瀬。今年のIR・OAを振り返ります。

【特集2】地域ワークショップ・主題ワークショップ報告
12月22日は全国3か所で同時開催！ DRF-Tokyo, DRF-ARMS, DRF/ShaRe-Kyushu をレポート。

編集後記：横浜の夜景がきれいでした。寒くなってきましたが体調に気をつけて乗り切りましょう。（い）

月刊DRFでは、みなさまからのお便りをお待ちしています。gekkandrf@gmail.com

月刊DRF第10号　平成22年11月30日発行　デジタルリポジトリ連合